

好景気とバブルの発生、その崩壊と慢性不況からなる景気の長期循環に構造改革や生産効率に関係ない。バブル崩壊を経験し、カネを失う不安に取り付かれた世代が経済の中核を担う限り、景気回復は難しい。本格的な回復には悪夢の経験を持たない新世代の登場が不可欠である。

十分に小さい 政府のサイズ

今年一・三月の実質国内総生産（GDP）成長率は六・四％となり、四月は一・三％に落ちたものの、株価も回復基調にあるように見える。小泉政権はこれらを回復の兆しと見え、構造改革の成果と主張する。不良債権処理をさらに推し進めて企業や銀行の体質



経済教室

を強化するとともに、非効率のものとしてある公共部門を縮小し、財政支出を削減して小さな政府を目指すと言っている。

しかし、その実態は引き締め政策で過去最悪の五・五％に上昇した失業率や、七千円台にまで落ちた日経平均株価が、政権発足時の水準に戻しただけだ。そもそも需要不足が不況の原因なのに、供給側を効率化してもあまり意味はない。それどころか人が余って失業が増えるだけである。

また、日本は本場に大きな政府か。国民一人当たりの公務員数も、財政支出の対GDP比も、日

本は経済協力開発機構（OECD）諸国の中で最低クラスである。この傾向は、この十年ほどを

もともと形だけのまねでは意味がない。しかし政府が「グローバルスタンダード」を標榜するならば、公共部門を拡大こそすれ縮小する理由はない。それなのに大きな政府だという誤解を、ただでさえ需要不足の日本で、さらに引き締め政策を行っている。

不安がもたらす長期循環

拡大し、業績も改善するから、構造改革を支持する。しかし、実態は単なる二極化で、経済全体の体質改善ではない。

構造改革で効率化を図るなら、それで余った人材の動き口を確保して、はじめて本当の効率化が実現する。不況下では、特定企業の業績向上と経済全体の効率化をばき違えてはならない。

不況の原因は カネへの執着

しかし、構造改革論者等は、供給側を一つ一つ改善すれば、景気が徐々に回復すると信じている。つまり、日本人が懸命に

生産効率は無関係 世代交代を経て本格回復

小野 善康

大阪大学教授



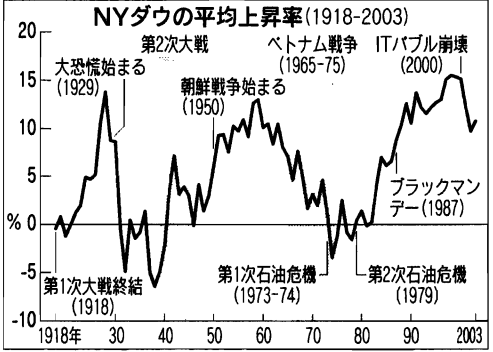
好景気の鍵は 新世代の登場

さらに、株価が三分の一にもなる激しいショックを経験した人々は、状況が安定化しても不安をぬぐえない。そのため、彼らが経済の中核を担っているかぎり、景気回復は難しい。本格的な回復には、悪夢の経験を持たないまったく新しい世代の登場が不可欠である。

非効率企業や公共部門の整理は、勝ち組企業には都合がよい。ライバルという理解である。企業は消滅や縮小をもちからである。それによって自分の持つ市場が

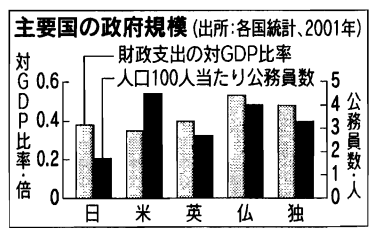
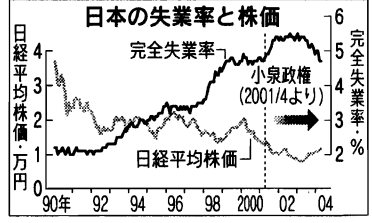
生産力が二、三年で最悪になり、現在に至っているのは考えにくい。実際は、景気はカネの魅力と物（やサービス）の魅力の綱引きによって変動する。物の魅力が勝てば、物の購入が増えて好況になる。カネへの執着が勝てば、物が売れず、不況になる。そこでは、カネは素早く戻るといえる。

さらに、株価が三分の一にもなる激しいショックを経験した人々は、状況が安定化しても不安をぬぐえない。そのため、彼らが経済の中核を担っているかぎり、景気回復は難しい。本格的な回復には、悪夢の経験を持たないまったく新しい世代の登場が不可欠である。



しかし、大きな生産力を持つ資本主義経済に発生する不安要因は小さく、購

おの・よしやす 51年生まれ。東京大経済学博士。専門はマクロ動学



してカネを貯（ため）よう。すでにその兆しはあうとしても、決して貯まる。たとえばインターネッ